

神の国の教え⑥災難と信仰

ルカの福音書13章1-5節
2012,12,2 HKJCF

I 概論

序)①神の国と弟子②終末時代を見る目
③様々な出来事への適用

- | | |
|----------------|-----|
| 1、2つの災難 | 1,4 |
| 2、災難の解釈(1),(2) | 2-5 |
| 3、適用 | |

II 2つの災難

- 1、ピラトの虐殺
- 2、シロアムの塔の倒壊事故
- 3、私たちも彼らと同じ

⇒①永遠のいのちへの道は肉体の滅びではなく魂の滅びを自覚し、原罪(神様の愛からの離反)を悔い改めることから②悔い改めとは神様に立ち返り、神様の和解を受け入れること ルカ12:58-59

III 災難の解釈(1)

- 1、因果応報:原因と結果の法則で説明
- 2、一般化等:心理法則←個の問題?
- 3、自分は安全と言うバイアス
→これが崩れたときは?
- 4、無常観:仏教的思想
- 5、原罪と神の救い←伝道1:1-3,12:1,
12:13-14

III 災難の解釈(2)

- 1、神の備えの体験:詩121,創22:14
 - 2、神の訓練の体験:ヘブル12,Ⅱコリ12
 - 3、神の証しの経験:Ⅱコリ1:3-11
- ⇒「苦しみは人生の教師」詩119:71

IV 適用

- 1、人生は無常であり、創造の神がおられなければすべては空しい
- 2、人間は原罪の内にあり滅びて(肉体の死、永遠の死)当然である
- 3、しかし、イエス・キリストの十字架の赦しの故、人間には永遠のいのちと新創造の希望がある
⇒今、神の赦しを受け入れ、み言に生きよう
Ⅱコリ5:20-21,詩119:71(分かち合おう)